

令和4年度 川崎市立宿河原小学校 学校評価

アンケート質問項目一覧

①	
児童	授業で学習したことがよくわかり、できるようになりましたか。
保護者	お子さんは、学習の基礎・基本が定着していると思いますか。
教職員	児童の学習の基礎・基本を定着させることができましたか。
②	
児童	本を読む機会は多いですか。
保護者	お子さんは、読書の習慣がついていると思いますか。(学校では、朝読書・読み聞かせ・国語の時間に行っています。)
教職員	本を読む機会を多く設けましたか。(朝読書・読み聞かせ・国語の時間等)
③	
児童	宿題や家庭学習をしっかりとこなっていますか。
保護者	お子さんは、家庭学習(宿題も含む)の習慣がついていると思いますか。
教職員	宿題や家庭学習の習慣をしっかりと身に付けさせることができましたか。
④	
児童	授業で、自分で考えて友だちといっしょに学ぶことができましたか。
保護者	本校は、子ども主体の授業に取り組んでいると思いますか。(子どもが子どもたちに説明して解決していく授業、自信をもって発言できる雰囲気を作るため相談タイム(ペアトーク)、グループでの学び合いを取り入れています。)
教職員	児童主体の授業を行うことができましたか。(全員挙手、ペアトーク、児童間で考えをつなげる学習等)

⑤	
児童	日常的にすすんで体を動かしていますか。
保護者	お子さんは、すすんで体を動かしていると思いますか。
教職員	児童が運動に親しむ意欲を育てる取り組みを行えましたか。
⑥	
児童	けがや事故、火遊びなど、危ない行動をしないで、安全に気をつけて生活していますか。
保護者	学校は、児童の安全を最優先しながら教育活動の実践をしていると思いますか。(怪我や事故防止の指導、登下校指導・避難訓練、不審者対応訓練等)
教職員	児童の安全を最優先しながら教育活動の実践を行えましたか。(怪我や事故防止の指導、登下校指導、避難訓練、不審者対応訓練等を含む)
⑦	
児童	いじめはどんな理由があってもいけないと思いますか。
保護者	学校は、いじめを生まない学校をめざして、いじめの未然防止や早期発見、初期対応に取り組み、相談しやすい雰囲気があると思いますか。
教職員	児童の人権を大切に、いじめの未然防止や早期発見、初期対応に取り組み、相談しやすい雰囲気をつくれるよう努力することができましたか。
⑧	
児童	道徳や共生 * 共育の学習で、自分の言葉や行動をふりかえり、考えることができましたか。
保護者	道徳や共生 * 共育の時間は、お子さんの生き方や考え方に役立っていると思いますか。
教職員	道徳や共生 * 共育の学習で、自分事として児童にしっかりと考えさせる指導ができましたか。

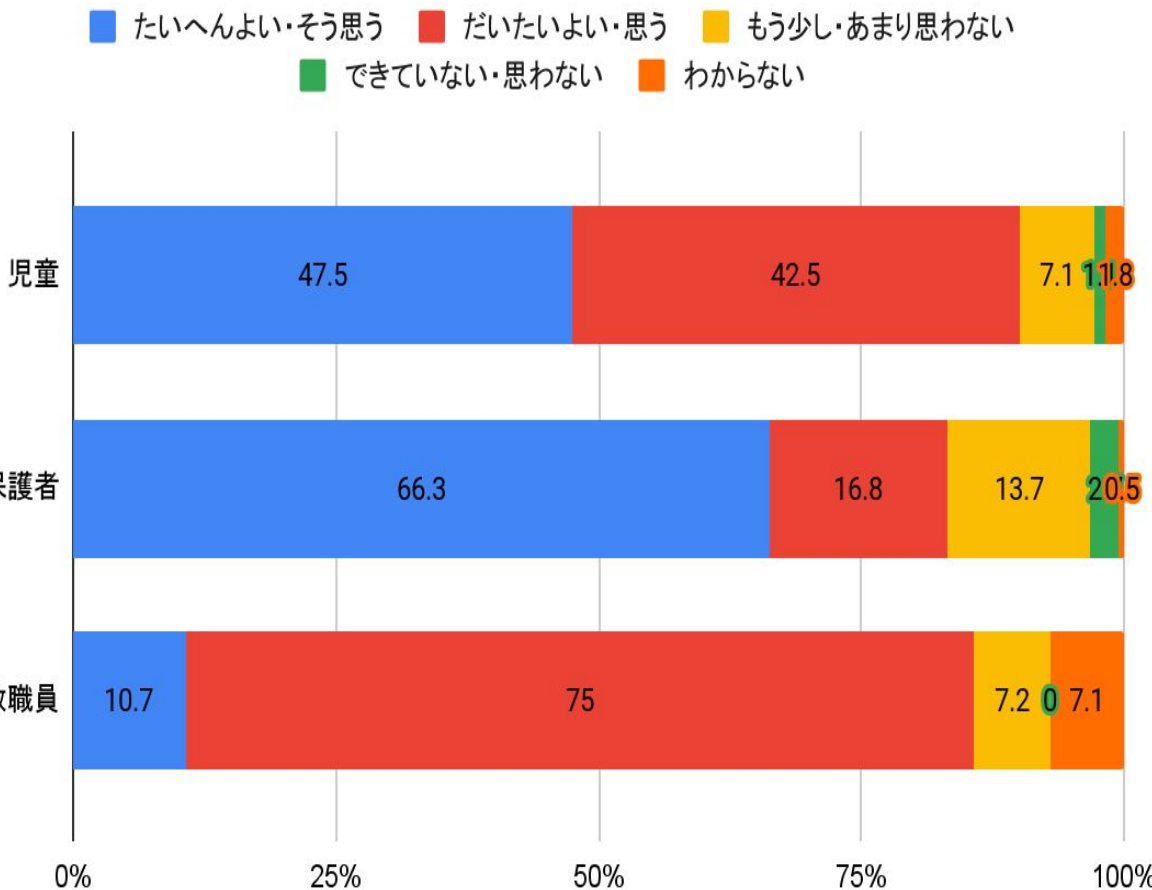
⑨	
児童	友だちの思いや気持ちを考えて話したり、行動したりできましたか。
保護者	お子さんは、思いやりの心や命を大切にできる心が育っていると思いますか。
教職員	思いやりの心や命を大切にできる心を育てる指導ができましたか。

⑩	
児童	こまったことがあったら、先生に相談できますか。
保護者	学校は、お子さんのことについて、家庭と共通理解するために話し合ったり相談にのったりする機会を設け、適切に対応していると思いますか。(支援教育コーディネーター、学校巡回カウンセラー、相談窓口の設置、教育相談日の設定)
教職員	児童や保護者が相談しやすいような雰囲気や体制を整え、話に耳を傾けることができましたか。

⑪	
児童	GIGA端末を日常的に活用していますか。
保護者	学校では、GIGAスクール構想に向けた一人一台のGIGA端末を日常的に活用していると思いますか。
教職員	GIGAスクール構想に向けた一人一台のGIGA端末を、日常的に活用することができましたか。

⑫	
児童	GIGA端末のルールを守って、よりよく学ぶために使っていますか。
保護者	お子さんは、GIGA端末のルールを守って、よりよく学ぶために使っていると思いますか。
教職員	子どもたちがGIGA端末のルールを守って、よりよく学ぶために、日常的に指導することができましたか。

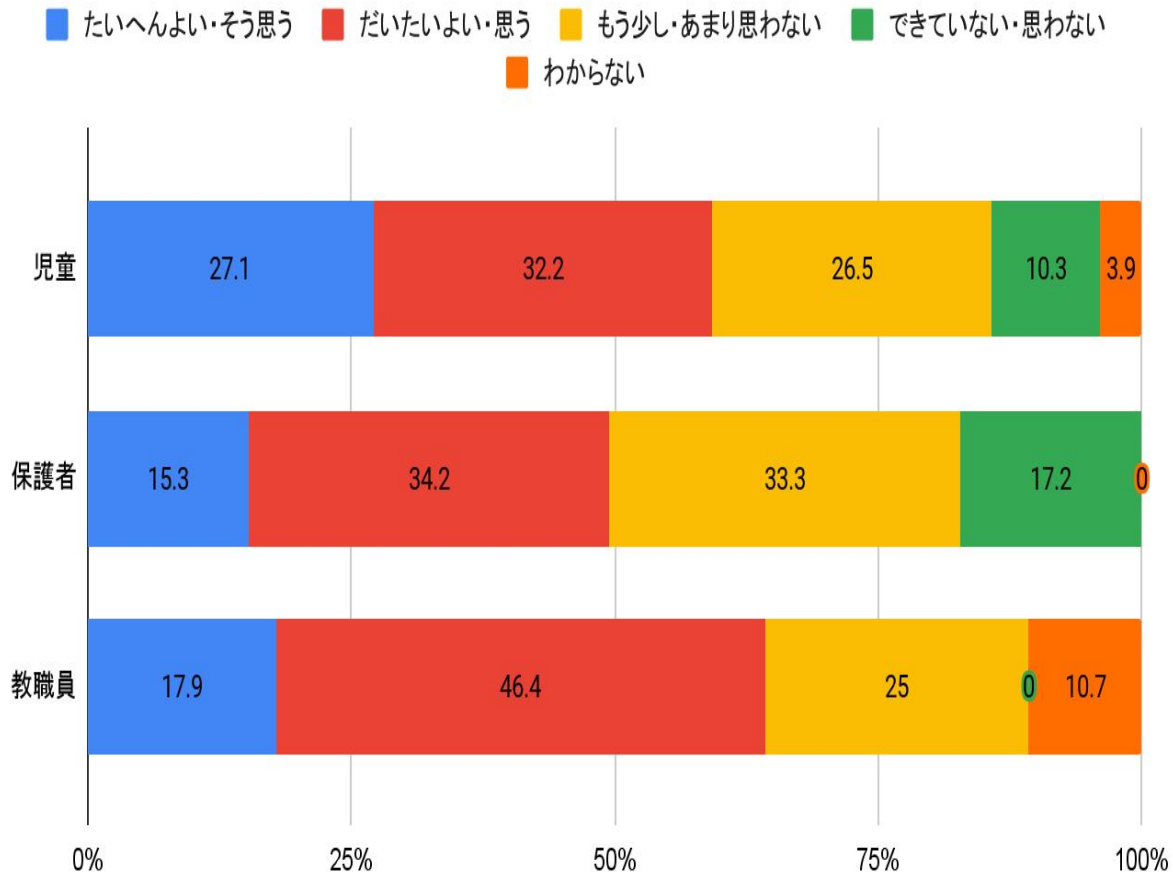
1. 学習(基礎・基本)の定着



児童の「そう思う・思う」は昨年度に引き続き、90%を超えた。各学年での教材研究や校内研究などを通して、指導や支援の方法を教員間で共有したことや各学年級で児童の考えを生かした授業を展開したことが児童の意欲や理解にあらわれたと考えられる。約10%が基礎基本の定着が不十分と感じているので、底上げできるようにより充実した授業が行えるように授業を工夫したり、個別の支援をしていきたい。

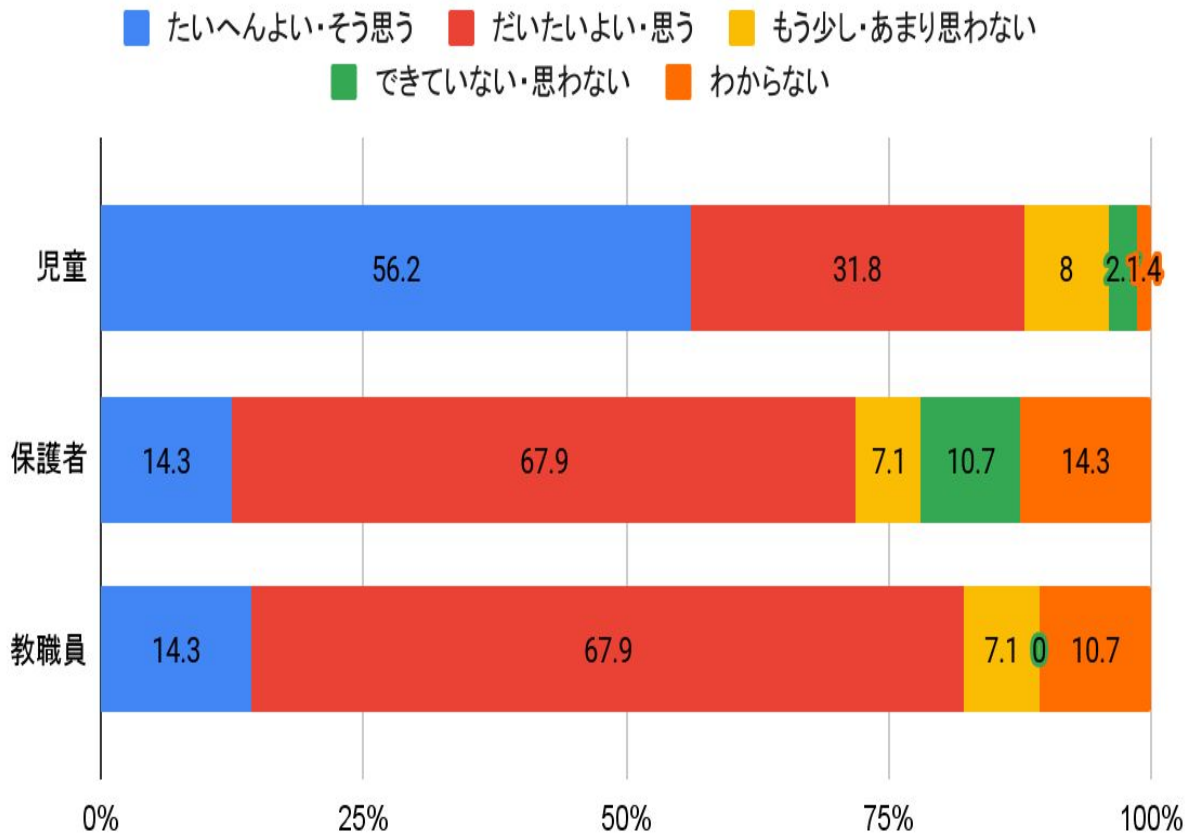
それらの取り組みを通じたことで、保護者の皆様からも、「そう思う・思う」に対して、約80%の評価があった。今後も学校公開や個人面談、懇談会、「のびゆくすがた」など様々な場面を通してしっかりと学習の様子を伝えるようにしていく。

2. 読書習慣



今年度も、学校図書館司書・図書ボランティアさんが図書室に常駐し、子どもたちの読書への興味関心を高めるための環境を整えてくださった。児童の「そう思う・思う」は、昨年度よりも減少している。身の回りが急速にデジタル化し、子どもたちが本を読むよりも短い時間で見られる動画などを見る機会が増えていることも理由として考えられる。本に触れる機会自体が減少していると思われるので、国語の学習を中心に図書活用を含めて、様々な図書の紹介をし、子どもたちが図書の魅力に気付けるようにしていきたい。児童の読書活動の様子を振り返り、読書量増進への取り組みを考えたい。

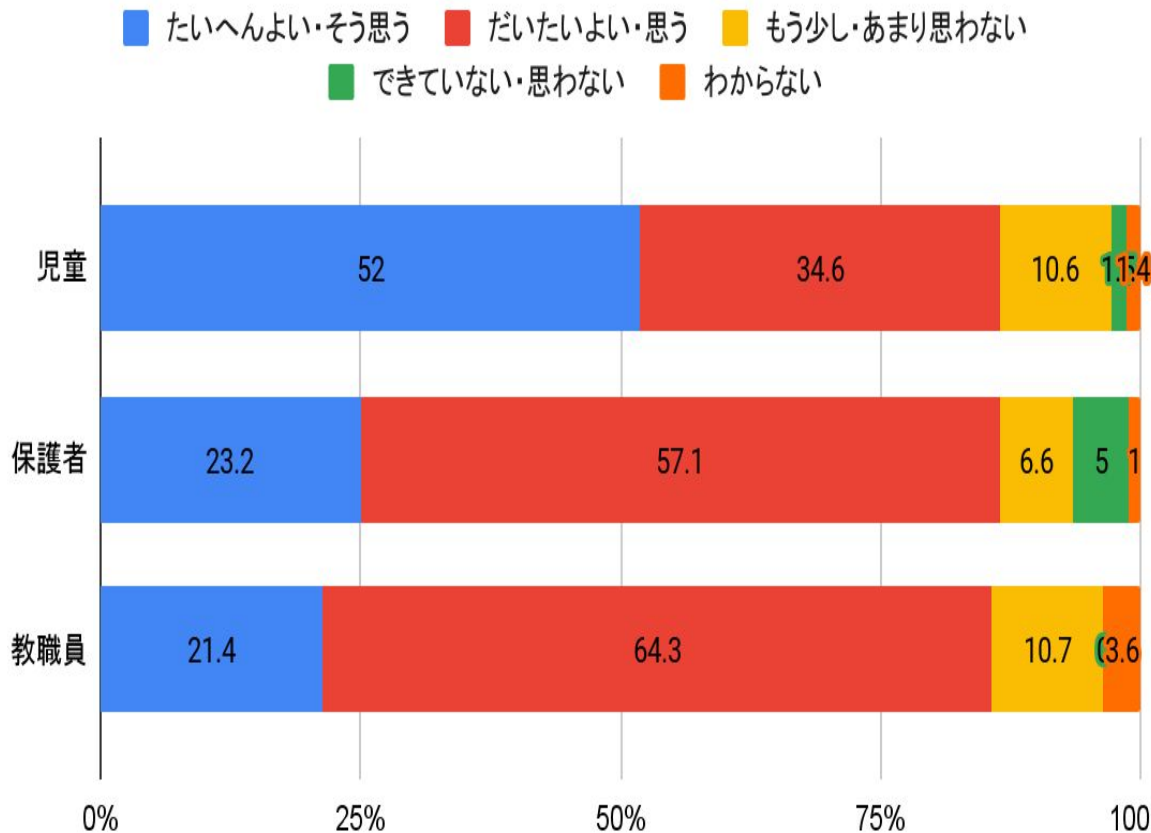
3. 宿題や家庭学習の習慣化



宿題や家庭学習については、昨年度と大きな変化はなく、子ども・保護者・教職員ともに、多くが習慣化していると感じている。1年生では宿題を保護者と一緒に取り組んでいたことで定着を図ったり、6年生では自学ノートに取り組み、提出日までに自分で計画を立てて行うなど自主的に取り組むように工夫したりと、各学年とも習慣化を図る取り組みを行った。

宿題や課題は提出して初めて評価されるものであり、さらに、中学校ではより厳しく評価されることになるので、先を見据えた意識を高めていきたい。

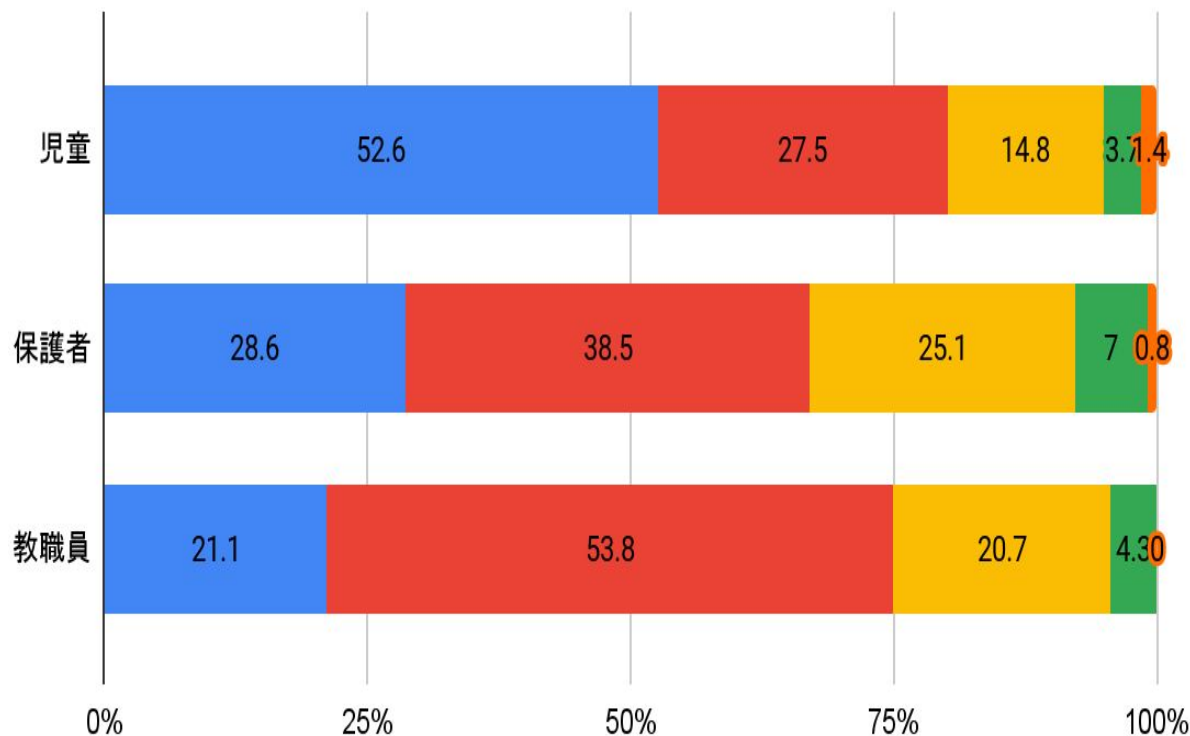
4. 主体的な授業への取り組み



昨年度よりも「そう思う・思う」が児童、保護者、教職員ともに増加している。教職員と児童の意識差もほぼない。子どもたちが進んで取り組むために、見通しとふりかえりを意識して授業に取り組んでいることが大きい。学習のゴールとその過程を明確にし、授業の終わりにはその時間で何を学び、次の時間にどのようにしていきたいのかを振り返ることで学習意欲につなげていくことに取り組んでいる。子どもたちが主体的に課題解決に向かうことで、より確実な成果に結びつくと考えている。今後は「あまり」の割合を減らすことを目指し、児童の自信を自分自身に反映できるように取り組んでいく。

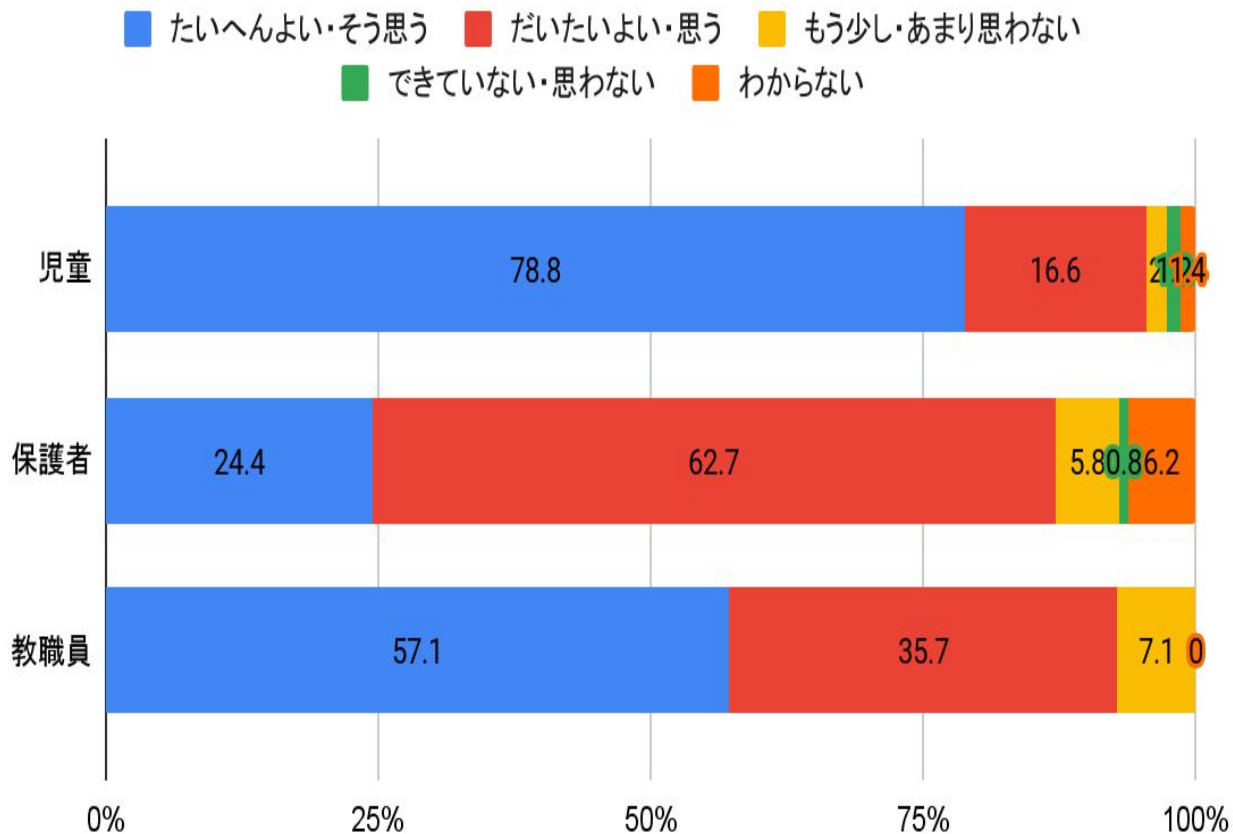
5. すすんで体を動かしている

■ たいへんよい・そう思う ■ だいたいよい・思う ■ もう少し・あまり思わない
■ できていない・思わない ■ わからない



昨年度は、学年ごとに校庭使用日を分け、校庭に出る人数を減らすなど、外遊びについても感染予防対策を行っていた。今年度は、コロナ禍前のように制限なく、外遊びができるようになった。朝や中休みに遊んでいる子どもたちを見るとボールだけではなく、ドッジビー・大縄など遊び方も幅広くなり、工夫して遊ぶ姿が見られた。一方で昨年度と比べて児童は、「そう思う・思う」の割合が減った。運動委員会主催による鉄棒検定が企画され、意欲的に取り組む姿が見られた。今後も引き続き、どの子ども外に出て体を動かす取り組みを考えていきたい。

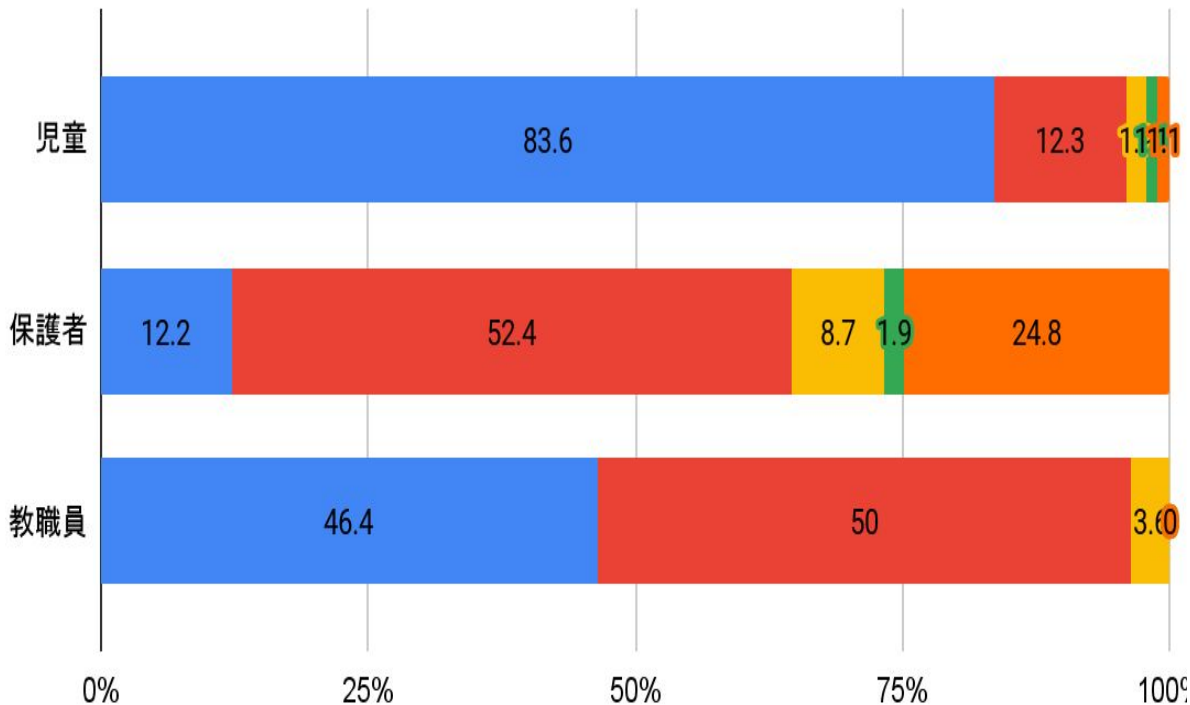
6. 安全に対する意識



児童の安全に対する意識は、非常に高い。意識をより高めていくためにも、体育の授業中、授業活動の内容に応じて安全を意識した指導を今後も続けていきたい。休み時間では、走っている子供同士でぶつかってけがをする児童が多かった。昨年度までと違って外遊びの学年の制限がないので、よく周りを見ながら遊ぶと同時に自分の体をどのようにして守るかの理解も、今後必要であると感じた。また、今年度は登下校中のけがが多かった。登下校時の歩き方などの安全指導を家庭と協力しながら行っていきたい。

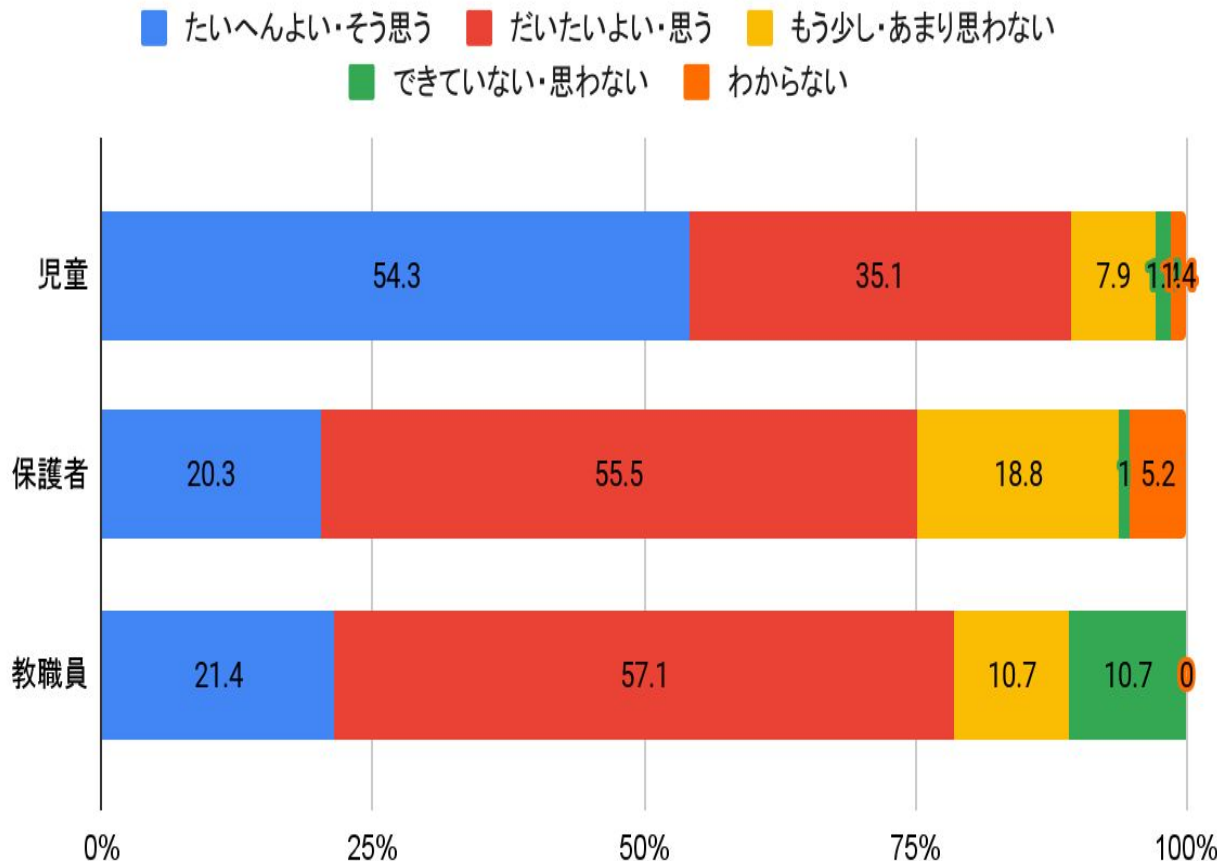
7. いじめ防止への取り組み

■ たいへんよい・そう思う ■ だいたいよい・思う ■ もう少し・あまり思わない
■ できていない・思わない ■ わからない



教職員は、子どもたちの日常の表情や言動を意識して指導したり、学校生活に関するアンケートをもとにしていじめの芽を摘もうと心がけている。いじめは絶対にいけないことであると、指導をしているが、児童・保護者ともに「そう思わない」が少しでもあることは、学校として大きな課題である。いじめ防止に対する取り組みをより広く行い、「なぜ、いじめはいけないのか。」を深く考えられるような指導を進めていきたい。また、保護者の「わからない」が約25%ある。今年度に取り組んできたことをもとに、活動内容を知ってもらえるような取り組みを進めていきたい。教職員は、今後も研修等でいじめの事例にふれ、理解を深めていく。

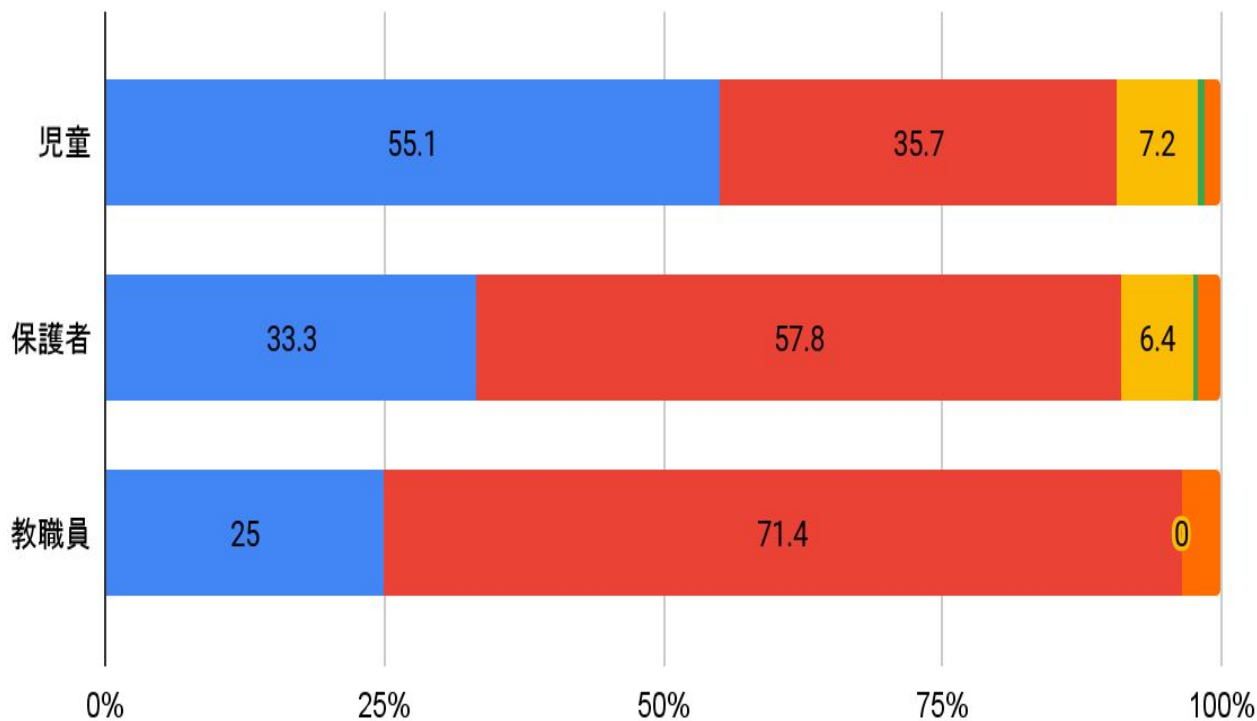
8. 道徳・共生＊共育(自主・自律)



道徳や共生＊共育の学習では、自分の言動を振り返るとともに、他者意識を育てることを大切にして取り組んだ。学校生活においては「共に学ぶ」ことが重要であると考えている。1年間を通して道徳や共生＊共育をその内容に応じて計画的に行っていくことで、子どもたちの自主性と自律性、相手を思いやる気持ちを育てていきたい。また、保護者の皆さんにも、活動内容を知ってもらうためにも、授業参観や学校公開ウィークでの授業公開など、来年度も多くの方に見ていただけるような取り組みを続けていきたい。

9. 思いやり・生命尊重(心の育成)

■ たいへんよい・そう思う ■ だいたいよい・思う ■ もう少し・あまり思わない
■ できていない・思わない ■ わからない

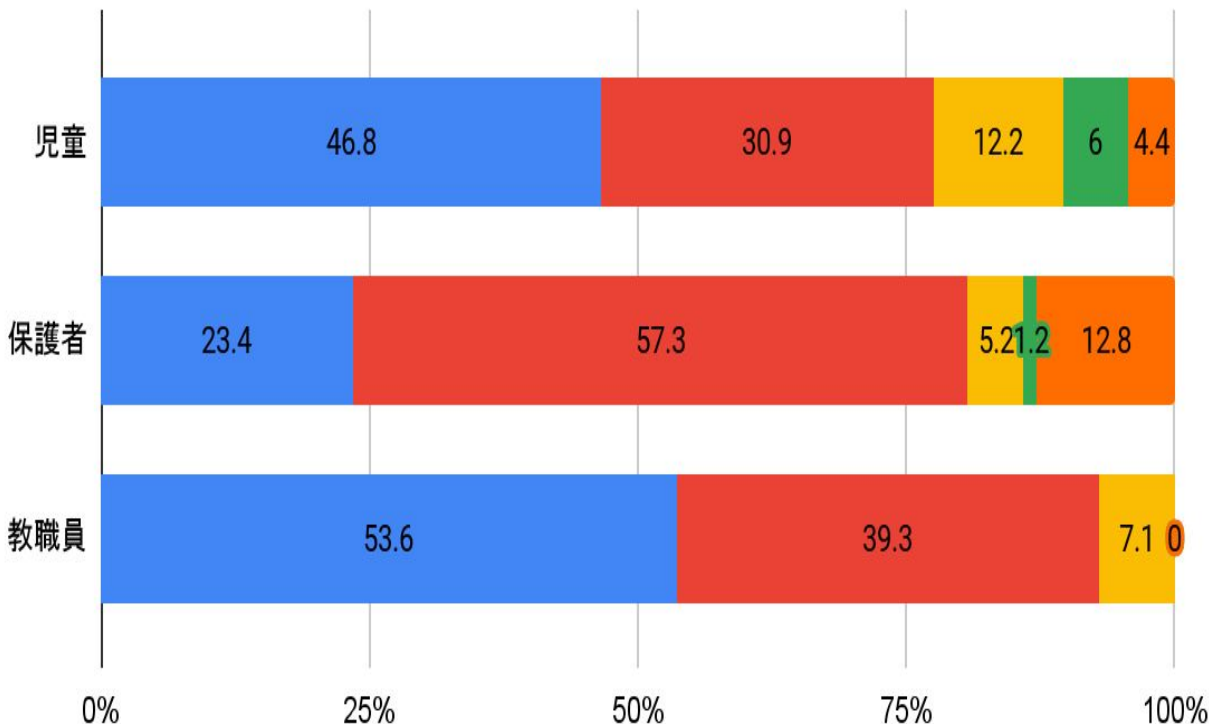


昨年度に引き続き、児童・保護者・教職員とも、思いやりの心は育っていると感じている。友だちに対して思いや気持ちを考えて話をしたり、行動したりできていると答える児童が多い。

しかし、その一方で、まだ自分本位な行動をしてしまう場面も少なくない。自分の利害にこだわることで、友達とトラブルになることもある。そうならないためには、自分のことだけでなく友達の立場に立って考えたり、気持ちを押し量ったりすることが大切。友だちの思いに気付き、思いやってかかわることができるように、家庭と学校とが連携して子供たちを育てていきたい。

10. 先生への相談

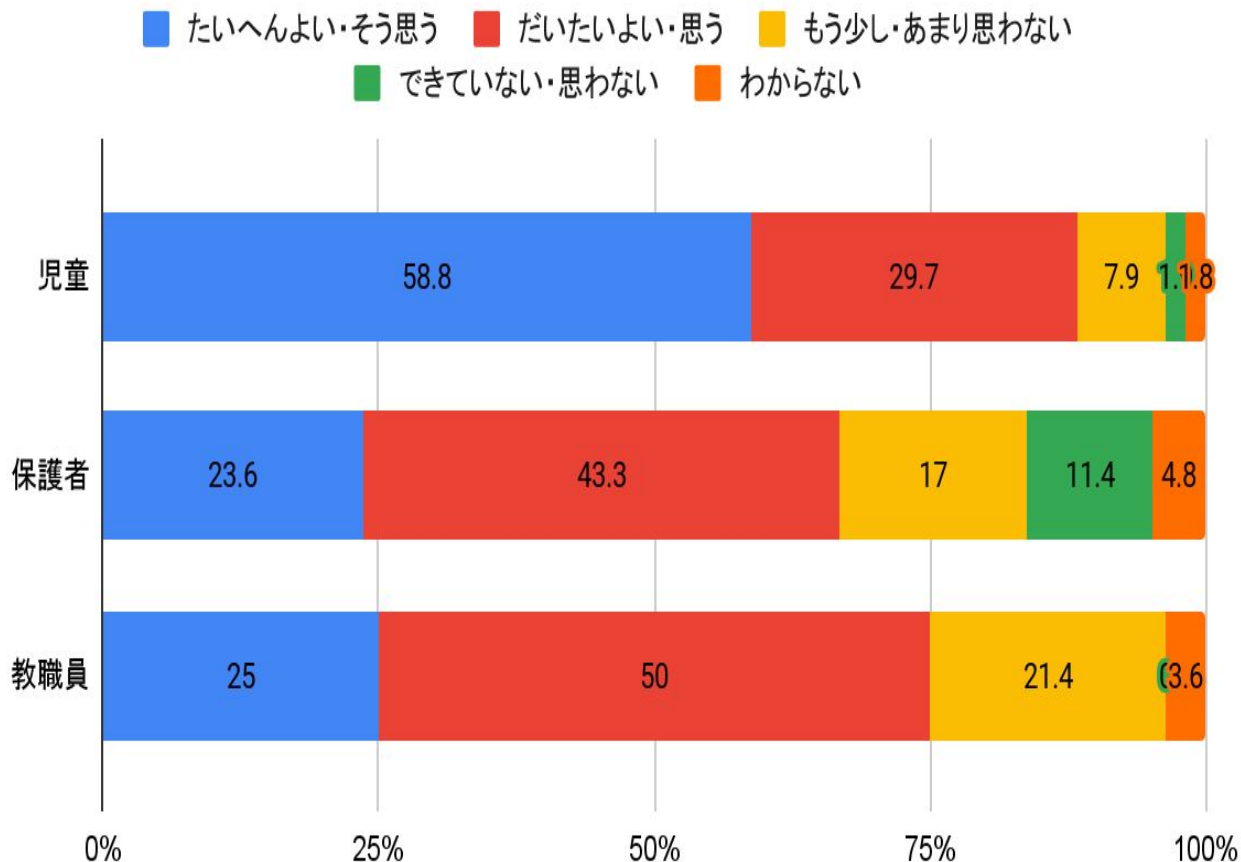
■ たいへんよい・そう思う ■ だいたいよい・思う ■ もう少し・あまり思わない
■ できていない・思わない ■ わからない



「そう思う・思う」と答えた児童の割合が昨年度よりも減少している。また、「あまり思わない・思わない」と答えた児童は18%いることも大きな課題と考えたい。教職員は「そう思う・思う」が90%を超えており、認識に差があることがわかる。その差を埋めていくためにも、普段から児童とコミュニケーションの時間や関わり方や会話をしているときの受容的な態度などを見直していきたい。

保護者については、今後も教育相談日などを活用していただき、担任や学校との連絡を密にし、コミュニケーションをとっていけるようにしたい。また、児童支援コーディネーターの役割を広く伝え、児童や家庭の困り感を一緒に解消していきたい。

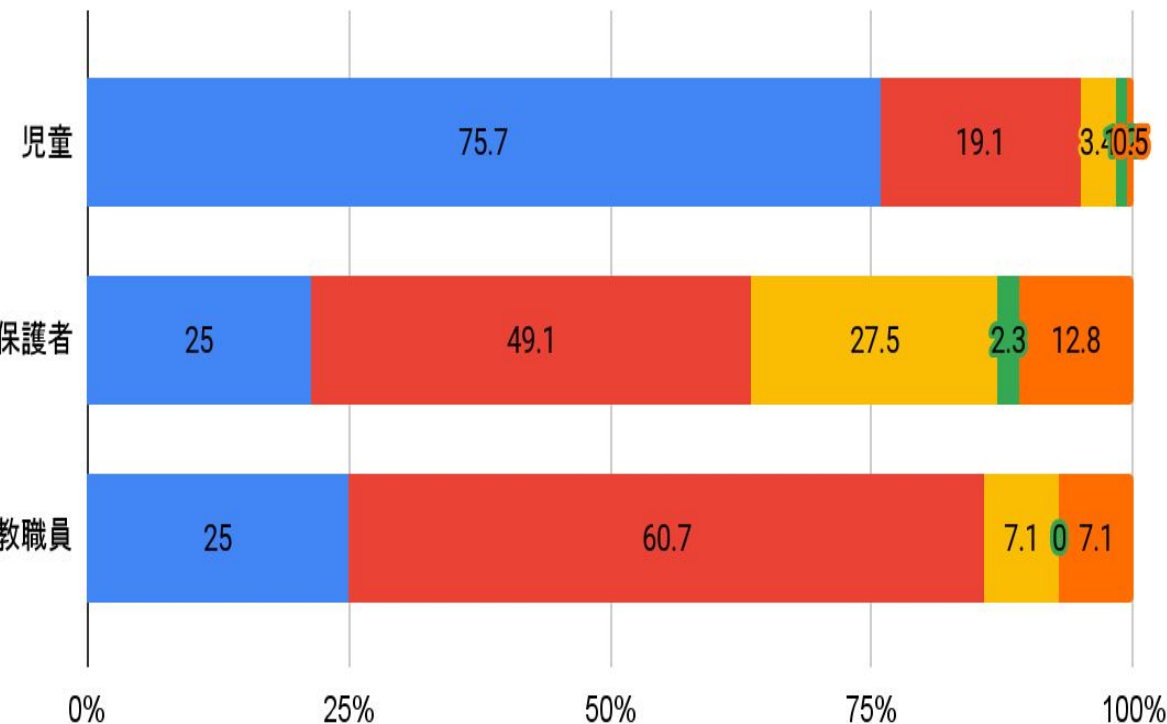
11. GIGA端末の日常的な活用について



児童がGIGA端末を使って情報共有したり、課題を提出したりする技能が身についた。日常的な活用について児童は、「そう思う・思う」が約90%と高くなっている。6年生の全国学力学習状況調査の結果でも高い数値となっているので整合性がある。保護者が66%と低くなっている。学校として、学年に応じてどのように活用しているのかを伝えていく努力が必要である。ローマ字の学習は3年生からなので、低学年は、キーボード入力ができないことから、カメラ機能を中心とした活用になる。その活用の方法の印象から低くなっている可能性も考えられる。

12. GIGA端末のルール・使い方について

- たいへんよい・そう思う ■ だいたいよい・思う ■ もう少し・あまり思わない
■ できていない・思わない ■ わからない



GIGA端末を日常的に活用すると同時にルールや使い方についても昨年度の導入時から授業だけでなくその都度日々指導してきた。GIGA端末は「学習のための道具」であるということがまず第一である。授業の中で課題を解決するための道具の一つとして活用している。また、授業中での使用が中心で、休み時間には係活動や委員会、クラブ活動などで端末を活用している。授業中や休み時間に関係のない内容の検索をしたり、アプリを使用したりしていたときは、その都度指導していくことを基本としている。外部講師などと連携して、情報モラル教育に取り組み、児童の意識向上を図っている。低学年から地道に指導していくことで中、高学年へと繋げていきたい。